

平成26年度 学校法人 今川学園 事業報告書

1、法人の概要

①名称：学校法人 今川学園 【昭和45年11月26日設立】

②住所：大阪府松原市天美北3-10-18
電話番号 072-337-1580
ファックス 07-336-3843
ホームページhttp://www.KONOMI-k.ed.jp

③設置する学校：木の実幼稚園
定員480名
実員340名 (平成25年度 347名)

④理事長氏名：今川公平
*理事7名 評議員15名 監事2名 定例理事会年2回開催

⑤教職員の状況

木の実幼稚園：教員 26名 職員6名 (内 育児休暇教員1名)
平成26年度新規採用者5名
平成25年度 退職者3名

2、平成26年度 木の実幼稚園の概要

①定員、学年、実員内訳、学級数

定員480名	平成26年	幼稚園児実員340名		
	3歳児	6クラス	110名	前年度111名
	4歳児	5クラス	116名	前年度114名
	5歳児	5クラス	114名	前年度123名
		未就園児クラス	50名	前年度 38名
		総合計	390名	前年度385名

②教育目標及び方針

【教育目標】

a, 生活指導上の基本目標

- ・あいさつが出来る。 ・感謝の気持ちが持てる。
- ・けじめがつけられる。 ・自分のことは自分で出来る。
- ・友達のことも思いやる事が出来る。

b, 表現活動を通して、豊かな「感性」と「心」を育てる。

～造形、音楽、言葉による表現活動を通して、感じたことを素直に表現し、
喜ぶ心を育てる。

c, 自分で考え、行動できる子供に育てる。

～いろいろな事柄、現象に興味を持ち、「何故」「どうして」「どうなるだろう」と考えられる力を育てる。

d, 友達と積極的に遊び、いろいろな遊びの工夫出来る子に育てる。

e, いろいろな遊びを通して、健康な心身を育てる。

【保育方針】

a, 日々の「遊び」を子ども自らが見つけ、広げ、熱中できるような、「確かな援助」と「環境作り」を保育の基本とする。

b, 「子ども一人一人の心情と思いを大切に」し、共に喜び、感じ合える人間関係をみんなで作り上げていく。

c, 子どもそれぞれの表現を知り、価値を認め、子どもの表現を保育の中に生かす。

d, 日々の遊びの中で確かな「自由感～ああもしてみよう、こうもしてみよう」「達成感～こんなことできたよ」が身につくよう、常に子ども一人一人をしっかりと見守る。

e, 様々な「もの」や「自然」と出会い、感じ、確かめ、遊びに取り込める環境作りを行う。

f, コーナー活動と全体活動それぞれの良さを生かし、互いに深くかかわる保育を作りあげて行く。

g, 保育者が活動を一方的に与えるのではなく、子どもと共に活動を見つけ、子どもと共に「生活を作り上げて行く」。

◇保育のモットー「誉めて育てる～誉める時は大きな声で、叱る時は小さな声で」 「子ども一人一人をしっかりと受け入れよ」

③保育時間

○月曜日～金曜日 Aグループ 9:10～13:40

Bグループ 10:10～14:40

○土曜日 月1～2回の親子の集い

④保育料及び諸経費

○保育料: 1, 2年保育～26,400円 3年保育～27,400円/月 (給食代を含む)

○バス協力費: 4,000円/月

⑤入園時の費用

○入園料: 1, 2年保育～40,000円 3年保育～50,000円

○設備協力費: 20,000円

⑥預かり保育

○月～金曜日：13：40～17：00

○夏休み及び冬休み中の預かり保育を年間20日間実施

⑦行事の実施状況

○4月／入園式、始業式

○5月／創立記念日、身体計測、個人懇談会、春の遠足、防犯訓練

○6月／宿泊保育、プール開き、参観日、耳鼻検診、視力検査、内科検診

○7月／七夕祭り、終業式、夏季保育、夏季特別預かり保育

○8月／夏休み、地藏祭り、夏季保育

○9月／始業式、参観日、火災避難訓練、移動動物園

○10月／運動会、参観日

○11月／秋の遠足

○12月／音楽発表会、個人懇談会、クリスマス会、終業式

○1月／始業式、防災訓練、参観日、身体計測、歯科検診

○2月／節分、造形展、入園説明会

○3月／雛祭り、お別れ遠足、卒園式、参観日、終業式

⑧実施した主な事業の概要

- ・園舎南棟 手すり取り替え工事及び非常食の備蓄倉庫を設置した。
- ・絵本書庫の整備と貸し出しを開始した。
- ・新しい教員研修として、新しい活動、保育の取り組みの実践交流会を企画、実施した。

3、財務の概要

園児数が若干減少する中、子育て支援事業として実施しているナースリークラスは年度当初から50名を確保し、年度末には定員の60名に達した。例年にない希望者の増加であり、結果として27年度の3歳児保育120名の入園につながっている。2歳児保育の需要の高まりに良質な保育で一層応えていかねばならない。

その中で、昨年度同様、経常費補助金は前年度並みの額を獲得でき、国庫補助金を除いた消費収入もほぼ前年度並みを維持できた。

資金収支面では、次年度繰り越し支払い資金はほぼ前年度並みを維持できたが、オーストラリアからの顧問料収入によって補っている部分もあり、消費収支部分での一層の収益の改善が望まれる。具体的には保育料収入の見直しも検討する必要がある。

26年度より始まった私立学校共済組合からの長期借入金の返済もなんとか乗り越えているが、将来の大阪府からの私学助成の方向は見えず、予断は許されない状況である。

毎年の事であるが、良質な教育は良質な教員からである。またそこにより良質な環境を常に磨き上げる覚悟が必要である。あらゆる教育資源をそこに入れ込まねばならない。